



城と史蹟を歩く会第17回 「佐倉城と城下を歩く」 ご案内資料

<日時> 平成14年11月4日 (休日=予備日は9日)

<主要行程> 八幡宿8時10分(4駅)千葉29分着、37分(7番線総武本線各駅先頭車両)佐倉53分着。武家屋敷街—成徳書院跡—佐倉城大手門跡—3の丸—2の丸—角馬出—本丸(昼食)—搦手の守り—田町(バス)新町—城下町商店街—おはやし館—甚大寺、堀田家の墓—堀田邸、庭園—佐倉駅17時ころ千葉経由、八幡宿18時ころ着

山岸 弘明

1) はじめに (地名の起こりと佐倉城)

- ①佐倉=桜樹が多いの意。佐倉と桜は今も切り離せない。
- ②佐倉城=慶長16年、本佐倉城大堀館にあった土井利勝が徳川家康の命を受けて築城を開始した平山城(丘城)。大坂の役をはさんだ元和3年?に完成した。江戸城の東面防御の拠点として歴代老中クラスの幕府要人を城主に迎え、土井利勝、堀田正盛、松平乗邑、堀田正亮、堀田正睦の5人は老中首座、大老として国政にあたった。城は印旛沼にそそぐ鹿島川と高島川に向かって突き出した比高30mの舌状台地最先端を本丸に、2の丸、3の丸、椎木郭などからなり、水濠、空堀、土塁などが高い精度で保存されている。
- ③土井家=利勝は家康、秀忠、家光の重臣として幕府基盤を確立、佐倉時代は老中11万石、次の古河で大老16万石。家康の落胤説が有力。子孫は古河7万石で明治維新に。
- ④前堀田家=春日局の縁に連なった正盛が家光に重用されたが、正信が幕法違反で廃絶、佐倉惣五郎とも結び付けられる。その子正休も信濃に流されたが復帰、のち宮川1万石で廃藩置県に。
- ⑤後堀田家=正俊は前堀田家の分家で春日局の養子。5代将軍に綱吉を擁立して古河13万石大老となるが江戸城中で刺殺された。5代正亮以降が佐倉11万石。9代正睦は首席老中で開国をすすめたが井伊直弼と対立、失脚。正倫が最後の殿様となった。

2) 佐倉駅をスタート

駅北口下車、歩いて正面高台の佐倉城をめざす。

3) 鎌木小路武家屋敷町

- ①急坂を上ると江戸時代にタイムスリップする屋敷街。鎌木小路=後堀田氏時代の上中級武家屋敷街で当時の面影を残している。
- ②旧河原、但馬、武居家住宅=江戸中後期の藩士邸。保存されていた旧材を凶面にしながら復元。屋敷前の低い土塁、門構えに特徴。間取りは玄関と庭、客間は接客用、主人の書斎、家族の生活の場を区分。裏の畑は自給自足の野菜。一般公開されているが邸内には入らない。
- ③西村茂樹旧宅修静居跡 ④大聖院と鎌木小路説明板 ⑤馬場跡

鎌木小路



武家屋敷



武家屋敷の通り復原断面図

4) 成徳書院跡

- ①6代堀田正順が佐倉学問所として創設。
- ②9代正睦が藩政改革の一環として藩学振興をめざす。数え8~15才落塾(初等教育)、数え15才~24才成徳書院総合大学方式、藩士の義務教育化。公開教育、他藩士、町人の就学も許可。とび級、落第。
- ③教育の基本は武術+朱子学。後期は蘭学、英語も。医学局に蘭方医学者佐藤泰然招聘。「西の長崎、東の佐倉」とうたわれた順天堂塾に発展。
- ④一術免許の法(文化8年正睦仰せ出し)=成績不良者は俸禄をカット。向後、文武、芸術未熟のものは知行のうち歩合をもって増引き仰せ付けらるべく候こと。ただし、文武、芸術のうち、一術成就いたし候わば増引きお戻しくださるべく候こと。

5) 佐倉城大手門

- ①空堀、かぎの手道、土橋、土塁、外升形左折れ、櫓門
- ②大手門(古写真参照)=4間梁×桁行8間、2階造り、畳数8畳2間、袖掛堀内囲いとも17間、矢狭間11、御門続き行馬150間。
- ③別名てうな門=ちょうな加工、庁南城から移築説などがある。
- ④時報鐘楼が付属。鐘は太平洋戦争で供出、鉄砲弾薬に変わる。

6) 広小路、3の丸御殿

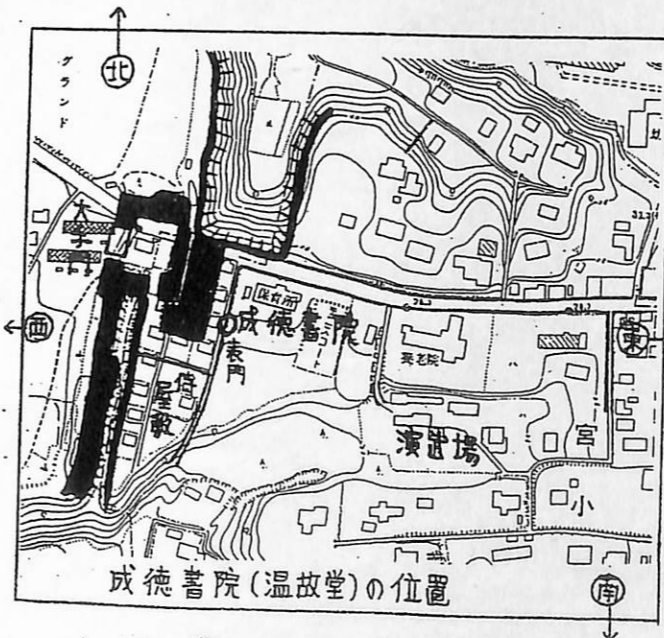
- ①広小路=道の両側に年寄などの上級藩士邸が並ぶ。 ②会所=町政の役所。
- ③3の丸御殿=文化2年からの藩主邸。堀田家後期の殿様が居住した。松山御殿=幕末元治元年、堀田正睦隠居御殿として建造、1か月後に不遇のうち逝去。
- ④佐倉57連隊碑=明治7年歩兵第2連隊、38年57連隊、北支、レイテなどを転戦。

7) 3の御門跡、家老屋敷跡

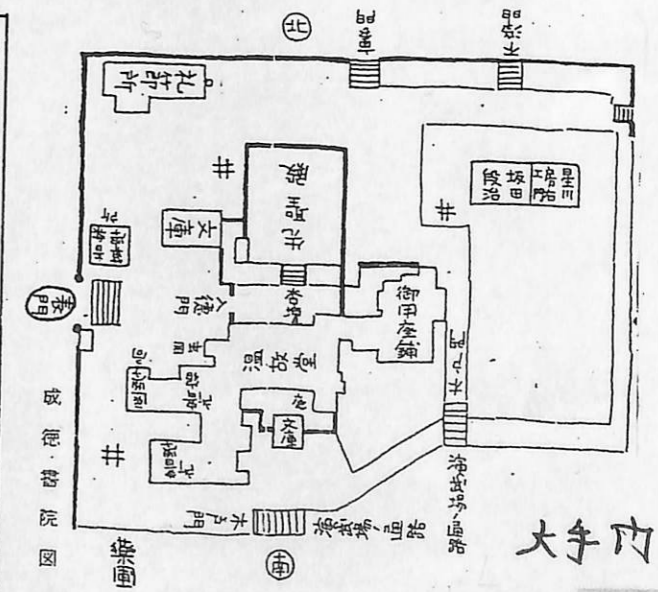
- ①空堀、かぎの手道、土橋、土塁、櫓門。前後を空堀で固めたが、明治以降連隊が埋め立てる。
- ②3の御門=古写真残る。3間梁×桁行6間、2階造り、緊急時は防御拠点、日常は作事方倉庫。
- ③家老潮田監物屋敷、横矢の守り。堀田兵庫屋敷。

8) 2の御門跡、2の丸

- ①空堀、土橋、土塁、櫓門。
- ②2の御門=3間梁×桁行8間、2階造り、日常は武器庫。
- ③藩主御殿、御対面所跡=土井利勝、堀田正盛、松平乗邑ら前、中期の藩主御殿。
- ④佐倉城礎石 ④椎木郭堀切跡



成徳書院(温故堂)の位置



大手門跡

古写真



大手門



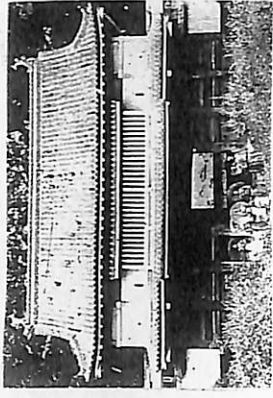
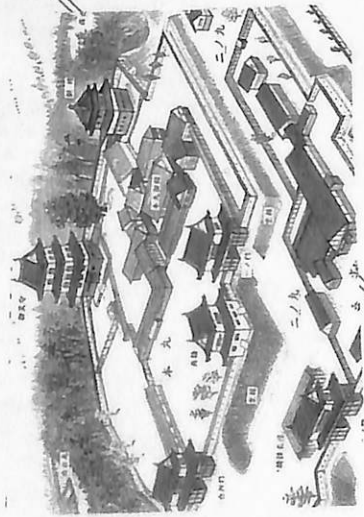
3の丸



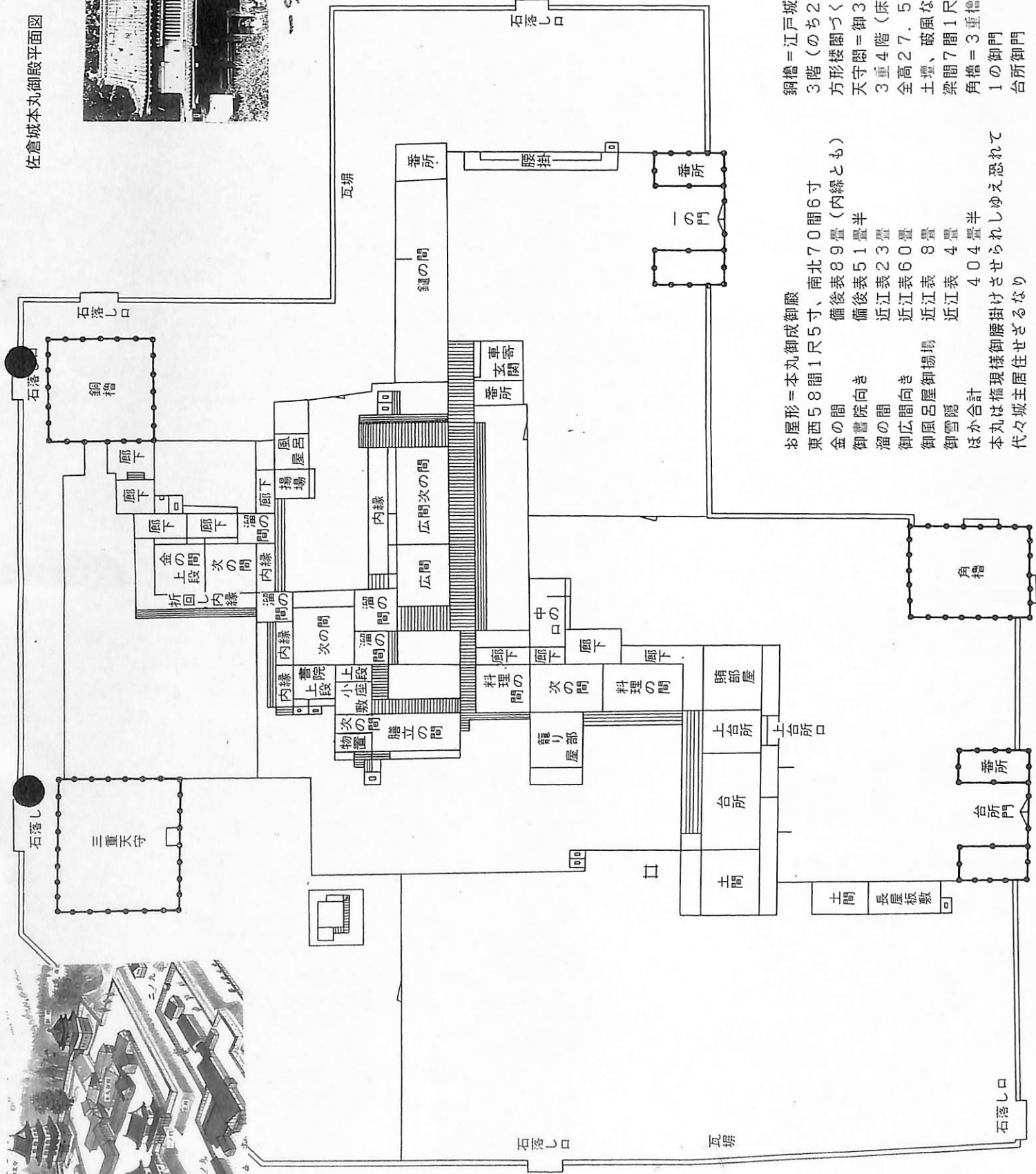
2の丸



佐倉城本丸御殿平面図



一ツ門



お屋形 = 本丸御成御殿  
 東西58間1尺5寸、南北70間6寸  
 金の間 備後表89畳 (内縁とも)  
 御書院向き 備後表51畳半  
 溜の間 近江表23畳  
 御広間向き 近江表60畳  
 御風呂屋御湯場 近江表8畳  
 御雪隠 近江表4畳  
 ほか合計 404畳半  
 本丸は権現様御腰掛けさせられしゆえ恐れて  
 代々城主居住せざるなり

銅櫓 = 江戸城拝領櫓、ご金蔵  
 3階 (のち2階に改築)  
 方形楼閣づくり銅屋根。四方6間  
 天守閣 = 御3階、矢倉  
 3重4階 (床下とも5階)  
 全高27.5m (しゅち含む)  
 土壁、破風なし  
 梁間7間1尺余、桁行8間2尺  
 角櫓 = 3重櫓、矢倉  
 1の御門  
 台所御門

9) 角馬出、歴史民族博物館

- ①馬出=城門の外につけられた防御施設。形状から角、丸、一文字などがある。
- ②日本最大の角馬出。深さ2分の1で復元。
- ③歴史民族博物館(遠望=入館致しません)

10) うばが池 (遠望)

- ①佐倉城最大の水の手。 ②菖蒲田=初夏はきれい。
- ③ウバと姫の伝説。昔、ウバが誤って姫を池に落とし、責任を感じて自らも入水。過失のあったウバより姫の方がかわいそうに思えるが?

11) 1の御門跡と台所門跡

- ①空堀、土橋、土塁、櫓門。本丸回り空堀は圧巻。土と粘土と交互に突き固めて急勾配を作る。
- ②1の御門=4間梁×桁行8間、2階造り、日常は弓方役所
- ③台所御門=3間梁×桁行7間、2階造り、文化3年大破、取壊し。以降木戸門、不明門とした。

12) 本丸御成御殿跡(昼食)

- ①将軍の御成りに備えた御成御殿=本丸は権現様、御腰掛けられしゆえ、恐れて代々城主本丸居住せざるなり(佐倉城旧記)。家康、秀忠御成り。家光は?
- ②金の間上段の間(金箔襖絵89畳=将軍使用)、下段の間(お次の間)書院上段の間、浴室、大広間、玄関(金すり石)。初期の御成りは数十~数百人規模だったものと考えられる。料理人も同行。
- ③井戸跡

13) 銅櫓

- ①旧江戸城西の丸の秀忠隠居御殿数寄屋を移築。寛永元年秀忠造営、6年家光の江戸城工事で総奉行を勤めた土井利勝が拝領。
- ②金閣、銀閣に似た方形楼閣造り。当初3重櫓を2重に改造?

14) 本丸土塁と夫婦モッコク

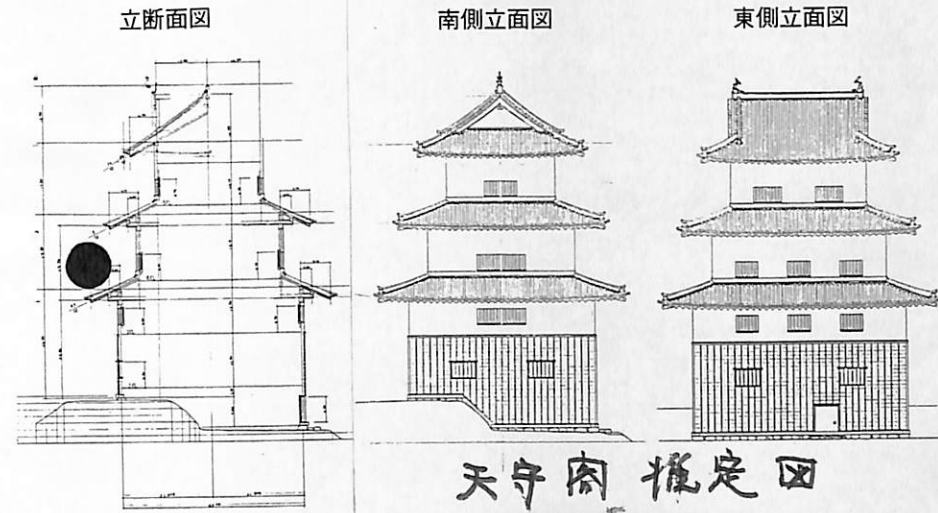
- ①本丸土塁=ほぼ当時のまま現存。お囲い瓦塀、弓鉄砲狭間、石落とし6か所。犬走り、武者走り
- ②夫婦モッコク=大坂の陣のとき土井利勝移植。
- ③城裏の構えを一望。鹿島川、高島川。印旛沼は一部埋め立てられたのでみえない。

15) 天守閣跡(ご三階櫓)

- ①ご三階櫓=水戸、古河、関宿城など関東地区の櫓。江戸城支城を意識した譜代大名の城。利勝がすめた城郭縮小政策を自ら率先。石垣なし、飾り破風なしの質素な造り。
- ②3重4階(半地下とも5階)梁間7間1尺、桁行8間1尺、延べ213坪。入母屋屋根、本瓦葺き、シャチ付き、全高27.5m
- ③文化3年、侵入した盗賊の灯火不始末で焼失。以降再建なし。形骸化する警備体制、実は本丸盗賊は2度目。

16) 帯郭、出丸、搦手の守り。急崖を下る

- ①ツーしか知らない佐倉城の魅力。搦手の急崖を下る。
- ②帯郭=本丸を囲む帯のように細い郭。登ってくる敵を弓矢、鉄砲、投石で射殺し、槍で突き落とす。
- ③出丸2か所、城南堤=搦手の守り。城南堤はいま知る人ぞ知る隠れた桜の名所。
- ④清水門(現存=復帰?)=外からみえず緊急時は曳き橋。緊急時は船で印旛沼に脱出。
- ⑤水濠=搦手側は水濠が囲む。およそ半分ほどが現存。濠回りをしばらく散策。



17) バスで移動  
田町14時33分発 (バス10分 160円) 歴博前、京成佐倉駅経由、新町下車

18) 旧佐倉成田街道と佐倉宿

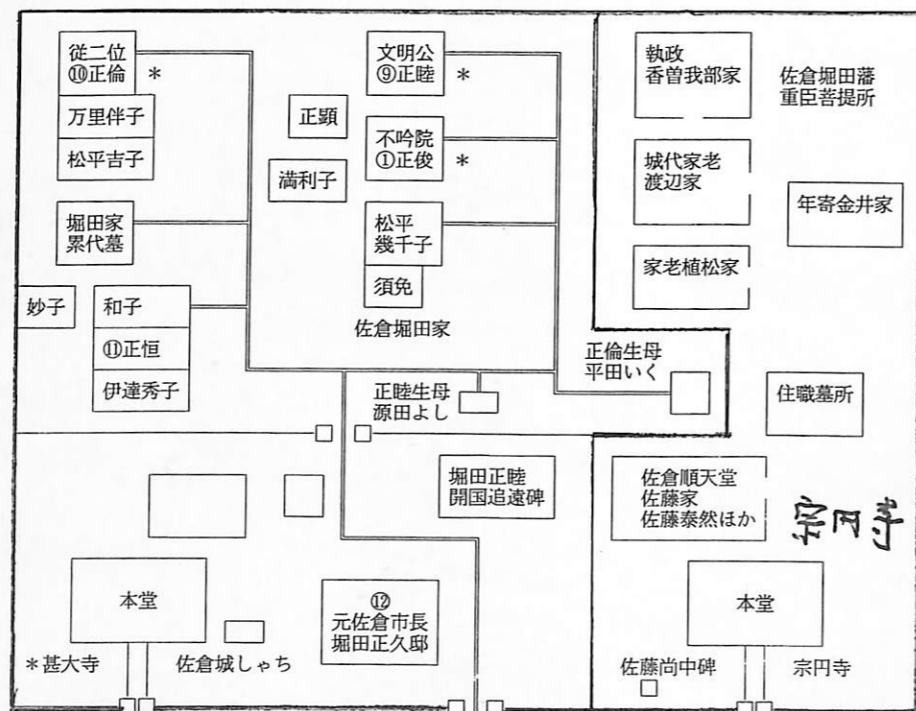
- ①佐倉成田街道(はじめ佐倉道)=日光街道千住から分岐、小岩市川関所—船橋—佐倉—成田。参勤交代は認められないが途中、船橋、行徳から海路、江戸入りする方が便利。
- ②城下町特有のクランク、古い町並み、商店が並ぶ。
- ③おはやし館=祭礼山車の常設展示場兼祭りばやし伝承の練習場。

19) 基大寺と堀田家の墓

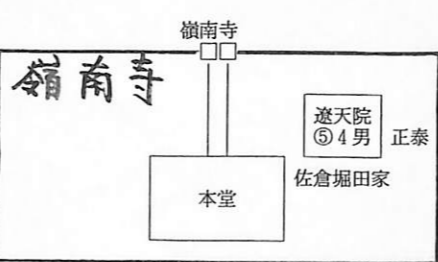
- ①天台宗の寺。安城山。本尊は不動明王。元和9年山形で創建。堀田氏の崇敬を受けて、延享3年に堀田正亮の佐倉転封にしたがった。毎月10日は縁日で賑わう。
- ②佐倉城大手門?しゃち ③堀田正久邸=直系子孫で元市長。
- ④堀田家墓所=佐倉の菩提寺(別紙参照)  
堀田正俊の墓=5代将軍に綱吉を担ぎ出して大老にすすむが疎まれ、江戸城内で殺害される。  
堀田正睦の墓=幕末の首席老中で開国を進める。勅許めがすが失敗。井伊直弼に失脚される。  
堀田正倫の墓=最後の佐倉藩主。維新後、農業や教育の振興に尽力した。  
歴代の墓、首席老中を勤めた正亮らを合祀



基大寺



基大寺



- 主要墓碑
- ①正俊=不吟院殿又新叢翁大居士(箱型=貞享元年)
  - ②正愛継室松平治郷4女幾千=謙映院(〃)
  - ③正睦=故佐倉城主侍従四位下紀文明公(〃) 元治元年
  - ④〃 生母源田光寿娘よし=芳妙院
  - ⑤正倫=従二位勲三等伯爵紀平正倫卿墓(〃) 明治十年
  - ⑥〃 生母平田伊久=堀田伯爵生母平田氏墓(〃)
  - ⑦〃 室松平齊斎娘吉子=従五位堀田府君夫人松平氏墓(〃)
  - ⑧〃 継室万里小路通房娘伴子=伯爵堀田正倫夫人堀田伴子之墓
  - ⑨正虎、⑩正春、⑪正亮、⑫正順、⑬正時、⑭正愛ほか合祀=堀田家累代之墓

堀田正俊の墓



20) 松林寺と土井家の墓

- ①浄土宗の寺。玉宝山。本尊は阿彌陀如来。寛永年間土井利勝創建。
- ②本堂=旧観音堂。屋根寄棟造り。瓦葺き。間口3間×奥行4間。大きく改造されたが柱などの主要部分は当初の部材を使用している。
- ③土塁=城の守り。当初はここから城下。大きな寺は緊急時に砦の役割を果たす。
- ④土井家墓所=佐倉城主時代の菩提寺(別紙参照)  
養父養母土井利昌夫妻=利勝は家康の落胤といわれる。天正元年駿府城で側室葉佐田氏から誕生。土井夫妻に預けられた。室の墓=松平近清の女。  
利勝2基と側室で2代生母駒井氏の墓は古河市の正定寺にある。

21) 佐倉順天堂(遠望)と蘭学通り

- ①佐倉順天堂=天保14年、堀田正睦によって招かれた蘭方医佐藤泰然が開設した蘭方医学校。向学の念に燃える塾生が全国から集まり、西の長崎、東の佐倉とうたわれた。幕末、明治の医学界を牽引した多くの人材を送り出した。安政5年に建てられた建物が現存し、一般公開されている。
- ②蘭学通り=塾生100人が闊歩した通りに因む。

22) 旧堀田邸(入場料210円)、庭園(無料) 解散

- ①堀田正倫は廃藩置県後、東京に居住するが明治21年再び佐倉に復帰してここに居住した。
- ②旧堀田邸=明治期の大名邸宅。千葉県では徳川水戸戸定邸とここだけ。邸内を一般公開。
- ③庭園=当時屈指の庭師・伊藤彦右衛門造園の洋風庭園。芝生を用いた明治庭園の特徴が出ている。
- ④佐倉厚生園=有料老人ホーム、病院。

23) 自由に佐倉駅へ 650円?

- ①歩けば20分、タクシー乗合い or バス(160円)可
- ②佐倉にはこのほか多くの名所、旧跡があります。ぜひ再度お出かけください。 以上

次回予告 12月5日(木曜日=予備日10日)第18回「芝増上寺と泉岳寺周辺を歩く」お楽しみに

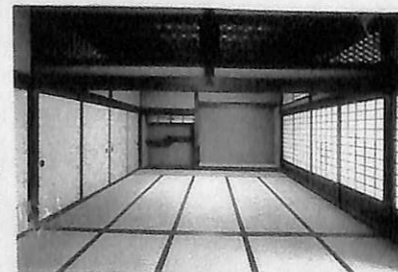


秋祭

おはやし館



松林寺



堀田邸



城と史蹟を歩く会 平成14年11月4日(休日=予備日は9日)

第17回 「佐倉城と城下を歩く」予告編

往路=八幡宿8時10分(各駅)千葉29分着、37分発(⑦番線総武本線各駅先頭車両)佐倉53分着。移動=田町(バス)新町  
復路=佐倉17時ころ、千葉経由、八幡宿18時ころ着

主なコースと見所 往路乗車券=八幡宿(480円)佐倉

- ①佐倉城=元和3年?土井利勝築城。江戸城東の要めとして歴代老中クラスの幕府要人を城主に迎えた。うち土井利勝、堀田正盛、松平乗邑、堀田正亮、堀田正睦の5人は老中首座、大老。堀田11万石で明治維新に。佐倉惣吾の悪大名、悪代官が喧伝されたが大半はフィクション。城は印旛沼にそそぐ鹿島川と高島川に向かって突き出した比高30mの舌状台地先端、土の城だが水濠、空堀、土塁、建造物跡などが高い精度で保存されている。
- ②竈木小路武家屋敷町=上中藩士邸の立ちならんだ武家地で町並みは旧態をよく残している。河原家、但馬家などを現存材復元。今回は外から。
- ③成徳書院跡=総合大学方式を先取りした房総最大の藩校。藩士は義務教育、7年間の初等教育のあと9年数え24才まで。武術+朱子学だがのち蘭学、英語、医学も。とび級、留年、成績不良者は相続で俸禄をカットされた。
- ④佐倉城大手門碑=ここからが城内。空堀に囲まれた豪壮な櫓門古写真が残る。
- ⑤3の丸と3の丸御殿=後期の藩主御殿。憔悴の正睦、松山御殿で逝去。
- ⑥●の丸=初期の藩主御殿・御対面所跡。土井利勝以下歴代藩主が居住。
- ⑦馬出=わが国最大の角馬出を復元。城門の外につけられた防御施設。
- ⑧うばが池=最大の水の手。嘘か誠か?姫とうばの悲話伝説に涙?
- ⑨空堀、土塁=本丸回りは圧巻。土と粘土と交互に突き固めて急勾配を作る。
- ⑩本丸(昼食)=土塁に囲まれた平地中央は御成御殿跡。将軍御成り以外には使用しない。金の間上段は将軍の寝室。家康、秀忠御成り、家光は?。本丸に1の御門、台所門の2門と天守閣、銅櫓、角櫓。後ろ堅固の急崖を覗く。
- ⑪銅櫓跡=家光から拝領。江戸城西の丸の秀忠隠居御殿数寄屋を移築。明治維新に取壊す。現存すれば重文か国宝。古写真に偲ぶ。
- ⑫天守閣跡=水戸、古河、関宿城など関東地区典型の御三階櫓。江戸城支城を意識した石垣も飾り破風もない質素な造り。3重4階(5階とも)。文化3年盗賊の失火で焼失、以降再建なし。
- ⑬搦手の守り=帯郭から搦手を下りる。ツーしか知らない搦手、水濠を巡る。
- ⑭城下町=佐倉11万石城下町。昔ながらのカギ型道に土蔵造りも。
- ⑮おはやし館=祭礼山車の常設展示場兼祭りばやし伝承の練習場。
- ⑯甚大寺=堀田家菩提寺、伝佐倉城大手門?しゃちを展示。
- ⑰堀田家墓所=綱吉将軍を擁立した堀田正俊、開国の父・堀田正睦の墓など。
- ⑱順天堂と蘭学通り=西の長崎、東の佐倉とうたわれた蘭方医学校。塾生闊歩。
- ⑲松林寺=土井利勝創建。養父、養母、室の宝きょう印塔が並ぶ。
- ⑳●田邸と庭園=最後の藩主堀田正倫明治の邸宅と庭園。

問い合わせ先=城と史蹟を歩く会 山岸0436-42-2237

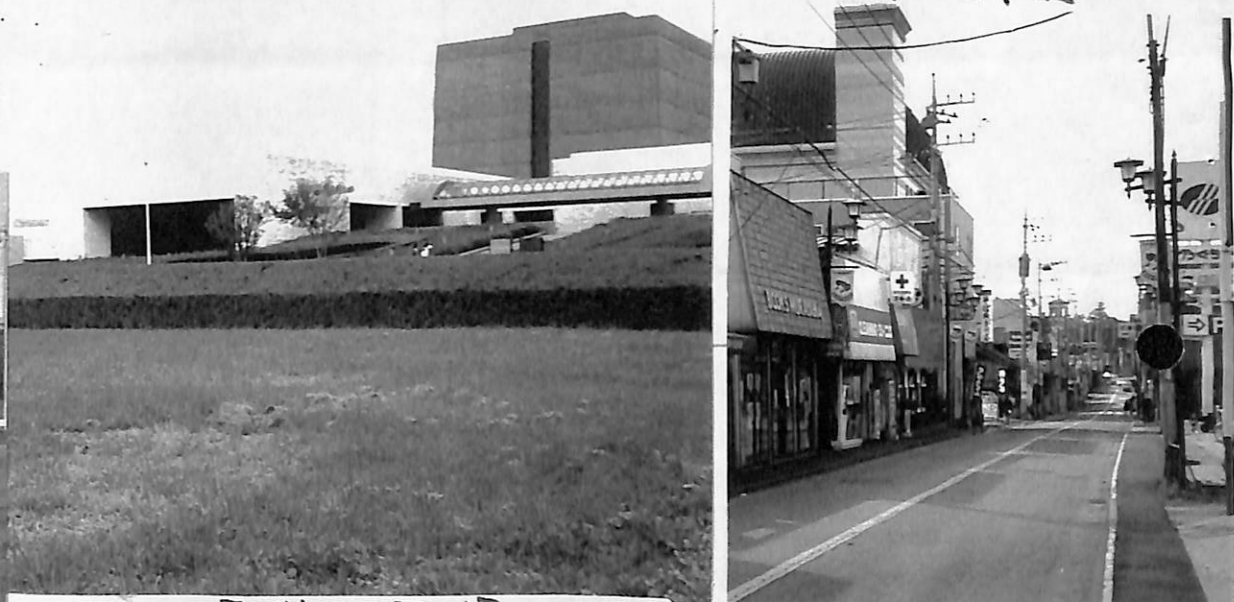


↑土井利勝 ↑堀田正睦

佐倉城の模型

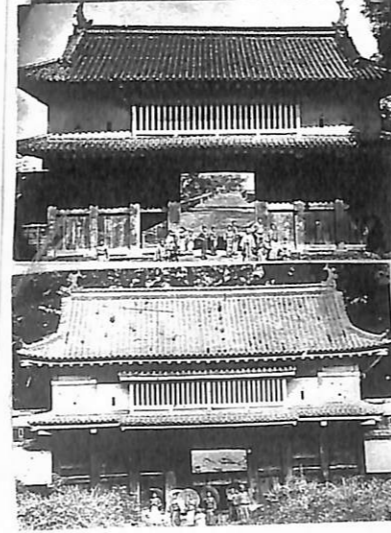


↑佐倉城本丸跡 ↓水濠



馬出と屋博

佐倉城下



←大手門

←1の丸  
古早英



おはやし館

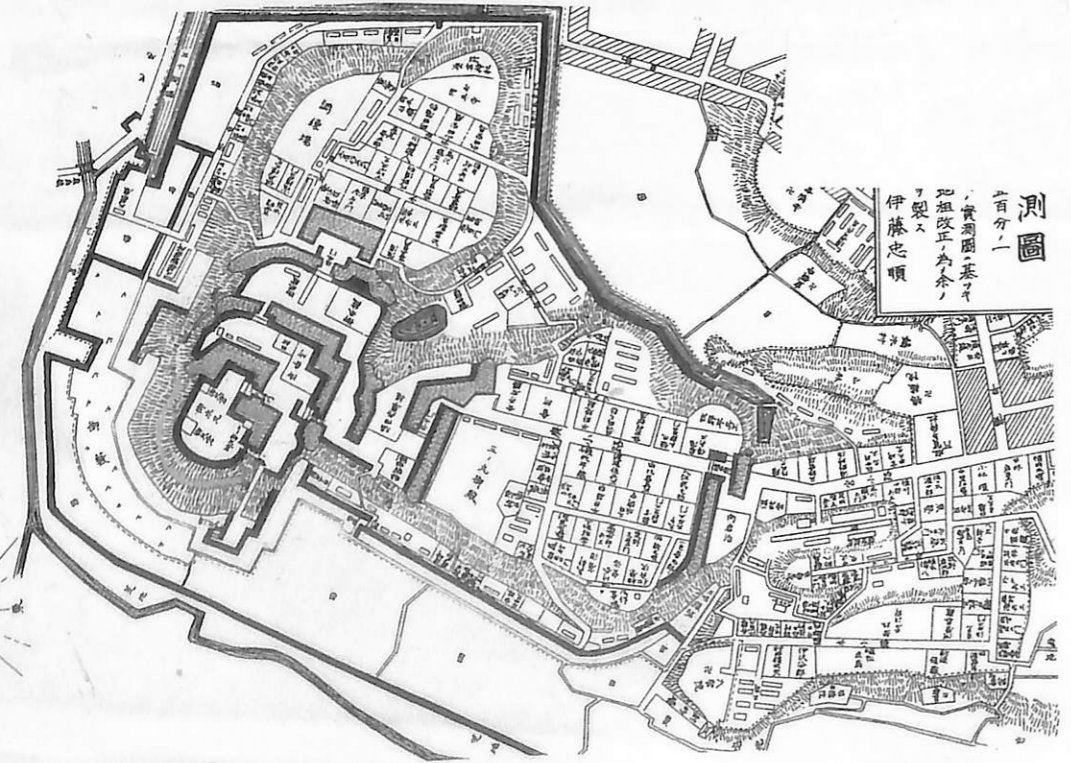


↑堀田邸



↓松林寺

↑武蔵屋敷

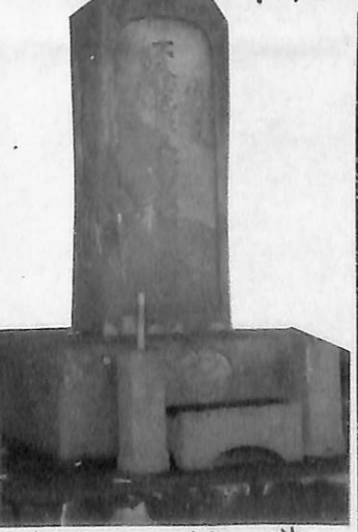


甚大寺

堀田正睦の墓



堀田正俊の墓



土井利勝父母夫人の墓

← 角馬出

鹿島橋 ↓

武家屋敷 ↑

↓ 成徳書院跡

志大寺 →

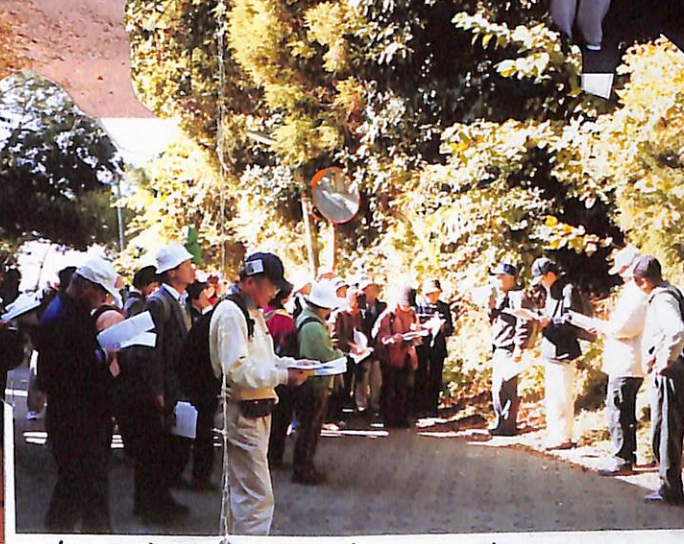
カブラ本郭 ↑

↓ 2の丸

堀田正倫

夕焼け富士 ↑

堀田町



城と史蹟を歩く会第17回「佐倉城と城下を歩く」  
ALBUM 平成14年11月4日 晴れ

主要御案内コース  
武家屋敷、成徳書院跡、大手門跡、3の丸、2の丸、角馬出、本丸、帯郭、搦手水濠、鹿島橋、お囃子館、甚大寺、堀田邸  
参加者54名(あいうえお順)  
熱田百代、安藤芳子、池田美志子、石原志津子、板垣てる、板倉満、猪野春枝、今井典夫、今田喜夫、今田須恵子、岩村ユウ、大岩勝男、荻田恵子、小倉すみ、岡本千代、小出敏子、古宮むつ、小山章一、桑原絹枝、齊藤定子、佐倉光子、洪木奎吾、洪木恵美子、白土貞子、鈴木クニ子、鈴木照子、鈴木等、鈴木洋子、高沢毅、高城正雄、高城富子、竹内克、竹上茂、武見敏治、近久芳彦、千葉範子、続木暉、永山寛一、永山靖子、中村節子、西村澄子、藤田康男、松川綾子、松橋さん、柳沼房子、吉池一彦、吉池町子、吉永正子、渡辺清枝、山岸弘明、国分三男、小出惣治、高沢恒子、藪本テイ子  
次回(予告編を参照ください)  
12月5日(予備日10日)芝増上寺と泉岳寺周辺を歩く  
連絡先=城と史蹟を歩く会0436-42-2237山岸



佐倉城の記念写真と本丸 →

